

平成 29 年度第 1 回阿南町総合教育会議議事録

日 時：平成 29 年 8 月 25 日（金） 13 時 06 分から 15 時 03 分

場 所：阿南町役場第一会議室

平成 29 年度第 1 回阿南町総合教育会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
 - (1) 町長
 - (2) 教育長
- 3 意見交換
 - (1) 町内の児童・生徒及び家庭に係る支援・ケース事案について
 - (2) 老人クラブによる児童見守り隊について
 - (3) 少子化・人口減少地域に対応した学校・教育環境のあり方と方向性について
 - (4) その他
- 4 閉 会

《出席構成員》

町 長	勝 野 一 成
教育長	南 嶋 俊 三
教育長職務代理	金 田 修
教育委員	猪 切 信 子
教育委員	大 倉 康 夫
教育委員	林 一 仁

《事務局》

総務課長	松 澤 享
総務課行政係長	伊 藤 恒

《出席職員》

教育委員会事務局長	岡 田 六 久
〃 子ども教育係長	村 山 俊 行
〃 社会教育係長	大 平 正 章

- 1 開 会 ＜13 時 06 分＞

○司会 松澤総務課長

定刻が過ぎましたので、これより第 1 回総合教育会議を始めさせていただきます。大倉

委員につきましては遅れてきます。

それでは最初に町長あいさつ。よろしくお願いします。

2 あいさつ

○ 勝野町長

改めましてこんにちは。それこそいろいろと皆様にお世話になっていますが、先般新聞にも出ていましたが、私に言わせると統合中学の話になる訳ですが、すぐそこへ飛びつく訳ではないですが、昨日富草でメガソーラーの説明会をした訳ですが、人口減少がどうしても止まらない。何処の南部の市町村長も十分承知をしておいて、そのことを避けて通れないとわかっている。まだ若干温度差があるが、しかしこの問題はどうしてもどうにもならない子ども達の問題で、みなさんのお力添えをいただいて、南部の町村そのものが一堂に会していい方に向かえるように、ご協力をいただきたいと思います。それぞれの町村のもつ問題もいろいろあるが、教育については同じ悩みでございます。

この間、国へ行ったら、国会議員が、「日本の教育は、日本人はどうして育たないんだろう。明治から道路にゴミを捨ててはいけないと言ってきたが、先進国でこんなに汚い道があるところはない。みんな勝手にごみを捨てる。」と言っていた。そういうことも含めて、教育は大事なことであり、基本であるので、皆様のご指導を賜る中で良い報告に持っていきたい。よろしくお願いします。

○ 司会 松澤総務課長

続きまして南嶋教育長からあいさつをお願いします。

○ 南嶋教育長

それではみなさん、ご苦勞様でございます。ちょっと時間を頂いて話をさせていただきますが、残暑厳しき折毎日が大変でございますけれども、先程の昼のニュースを見まして、北陸から東北にかけて非常に局所的に豪雨・暴風雨等々で、非常に災害等が起きているわけですが、一方では台風13号が中国に上陸して猛威を振るったニュース。あそこら辺を見ると、海水なんかも上がってきている。

そんな中、教育委員の皆様におきましては、29年度の第1回の総合教育会議ということでお世話になりますがよろしくお願いします。

そんな気候の中、だんだんと朝夕涼しくなってきたこの時期になると、いつもこの歌を思う訳ですが、古今集の中の藤原敏行という作家の歌ですが、「秋来ぬと 目にはさやかに見えねども 風の音にぞおどろかれぬる」最近多くなってきたかなと思います。どういう歌かという、目とか肌で感じる残暑は厳しいんだけど、吹く風がほほを伝わるときに涼しさを感じる、秋を感じるということです。ですので、こういう忙しいときでもそういう心のゆとりを、感じるような日々をおくりたいもんだなあ、こんなことを思うものです。

私がこの職に就かせていただいてから5年目を数えます。平成25年5月14日からお世話になっている訳です。そんな中振り返ってみますと25年には、阿南町の教育は何を目指しているか、はっきり言って何もなかった。これではまずい、一つの目標を立てながらやっていかなければいけないということで、25年の終わりに阿南町の教育方針を立てまして、26年からその目標に従って実施したわけでございます。27年4月から教育委員会制度の改革ということで、委員長が無くなって教育長が主となって首長部局と連携を取り合ってやることとなり、その27年の4月から年2回総合教育会議というものを開くこととなりました。

そんな中で文科省の方でも、教育に関して大綱を作りなさいとなり、私どももちょうど25年から実施していた、教育方針を若干手直しして大綱に結び付けてきた訳です。それと共に教育スローガンを作ってやっていこうとなり、スローガンの中でも「考動力」を表に出して取り組んでいただくとなった訳でございます。27年にのぼり旗を作ってい

ただいて町全体に飾りながら、町民・先生方・保護者に周知徹底を図っていった訳でございます。初めのころは「なんだこれ。」と言われたわけでございますが、だんだんいろいろな説明をする中で、理解していただいたということでございます。その考動力につきましても、28年には、学校の先生方個々に考動力について実行していただいて、どんな取り組みでもいいから取り組んでいただいたことに関して、レポートを書いていただきました。レポートもA4で1枚か2枚多い先生で4枚になりますが、レポートを書いて提出いただいて、先生方80人くらいのレポートを各学校へ2部ずつ閉じたものを配って、いろんな先生の「考動力」についての取り組みが、載ってますので参考にさせていただいてやっていただきたいと、いうようなことで取り組んでいただきました。

今年度になりまして、その「考動力」に対して『花まる学習会』という塾があるわけですが、それが考動力というものに賛同していただいて、阿南町でもそんな取り組みにやってもらいたいとなり、この『花まる学習会』は18日に阿南町の教職員の研修会に1時間半にわたって講義・演習を行っていただきました。そんな中で自分の授業に関するポリシーはあると思うが、各方面からアプローチする中で、いろいろ勉強する機会が大切であるということでそういう時間をとった。それぞれの先生が感じ取ってもらったと思います。そんな中で「考動力」についても話していただいているわけですが、この先29年、30年、31年と一層深めて周知徹底をしたいと思うところでございます。特に保護者の方へ「考動力」が何で必要なんだというようなところを話しながら、深めていって今の子どもの考動力を着けさせていけば、阿南町の学力も上がってくるのかなという見通しを持っている訳でございます。言うまでもありませんが、「考動力」というのは、今の子どもは何をやらしめて、自分で何かやるというのはございません。すべて周りの先生・親たちに指示されながら動いている子どもたちがほとんどです。そういう子どもを「指示待ち族」といいます。指示世代と言っている訳でございます。こういうような子どもたちを解消していくために、「考動力」というものを考えている訳でございます。この辺を何年かかけて周知徹底し、それから阿南町の子どもを育てていきたいと思っている訳でございます。この少子・人口減少社会において、阿南町のみならず南部の地域においても、考えていくべきものであり、考えざるをえない時期に来ているんじゃないかというふうに思います。ぜひ、阿南町を考えながらまた南部の教育を考えるうえで、この阿南町が先頭に立っていくというふうに思います。

まあ、阿南町の教育はそんな風に進めたいと思いますのでよろしくお願いします。もう一つ阿南高校のこともあります。第二次高校再編は8月21日に、パブリックコメントが県の公民館で説明会がありますが、この高校再編については大きく4つの部門に分かれています。都市部存立普通高校、二つめに都市部存立の専門高校、三つ目に中山間地存立校、四つ目に中山間地存立特定校に分かれています。阿南高校は最後の中山間地の特定校に入るんじゃないかなと思います。ゆくゆく何年かは持つと思いますが、3期・4期の高校再編にかかっていくと思いますので、ぜひそっちの方にも地域・阿南病院・企業などと融合をとりながらも、阿南高の特色ある高校づくりをしていただきたいと思っている訳でございます。いずれにしても課題は山積みです。一つ一つ解決しながら方向づけをしながら行きたいと思います。教育委員会は、財政自主権がございませんので、町長さんの方から、学校はお金がかかりますが、将来を担っていく子供たちのためにも金をかけなければと思います。教育は金なりとよく言われる訳ですが、いい方であらえて、教育に金をかけて素晴らしい子供を育てていくんだというふうにお考えいただきたい。ハード面、ソフト面でお金がかかりますけど、そんなお願いをしましてあいさつにしたいと思います。

○ 司会 松澤総務課長

それでは次に3の意見交換に入りたいと思います。

まずはじめに(1)町内の児童・生徒及び家庭に係る支援・ケース事案について、教育委員会事務局から説明をお願いします。

○ 村山子ども教育係長

それでは、私の方から説明を申し上げます。

資料No.1ですが、「阿南町要保護児童対策地域協議会 案件一覧」です。今現在、取り扱っている、あるいはこれから取り扱うだろう家庭の状況を挙げさせてもらったものです。

《9件の家庭について、資料により説明》

内容省略

○ 松澤総務課長

今説明しましたが、これについてご質問・ご意見等ありましたらお願いします。

《意見》

- 質問と言うより訂正ですが、K家のSさんは高校1年でなく2年です。Nさんは小2でなく3年生です。

- E家のTさんも高3でなく2年です。

- 私が教育長でここへ来たときには、こういうのが1件もありませんでした。

それからだんだん増えて、今9件ということであります。個々によってケースが違う訳で、発達障害、不登校尾、親の関係、家庭不和などそれぞれ違う訳で、それによって子ども達が影響を受けて、学習ができない生活ができないということでありまして、家庭から近所から地域から情報が入ってくる。それによって学校側と教育委員会が、一つの家庭で2カ月から3カ月に1回のペースで、ケース会議をやって情報交換をしながら、対応・対策を考えている訳でございますが、いずれにしましてもこういうケースが多くなってきて、手がかかる家庭・親になってきたなと思っております。

- 新任のとき無かったというのは、全然なかったという事か。把握できなかったとかでなく全然なかったものが、これだけ増えてきて、それでこれからもっと増え続けるという事か。

- 全然なかったということじゃなくて、社会情勢と言うか医学の関係も発達してきて、そういう傾向にあるからこういうふうにも面倒を見て行きなさいよという、文科省からの話もあって段々とピックアップされて来たんじゃないかと思う。

- だんだんとああいう子も、こういう子も見てほしいと増えて行く事はないだろうか。

- 増えて行くのはかまわないにしろ、何でもかんでも町がみろといい、この間の話のように中間教室へいく経費も見ろ、金がかかるところも町がみろというふうに、なっているのも困ったもんだ。親の子育ての義務を果たさないで、権利ばかり言うようになるから大変だ。反面、そこまでみてやらなければならないと思っている。

- 結婚された後に両親が分かれられて、子どもを連れて戻って来たところは家庭の中が不安定になって感じがする。全部ではないが、一人でたくさん育ててるお家の方にそういう傾向がある様な気がした。

それ以外で行くと、6番のK家 お父さんお母さんが、その当時の特別支援対象の両親なので、子育てに限界があるという結果で、子ども達が不安定になったりとか、周りが見えて、手助けをしなくちゃいけないというのがようやく地域に解かって、いろいろな支援をいただいている。特にK家については、旦那さんの職場の方がものすごく見

て頂いているおかげで、いろいろなことを家族で思う体制でやってくれている。

あと、障害のあるお子さんは他でも言ってきているが、両親が向かい合っていると家庭は、不安定感を持たずに受け入れて行く事はある。家庭的な不安定が子ども達に影響していくのではないか。

- 元が家庭とかになると、それはどこでやるのか。サポートとかは町で行けばどこがやっているか。
- K家の場合だったら、上の二人が行くときには保育園の先生たちが、子ども達だけじゃなくてお母さんもサポートするという形で関わってくれたので。Mさんたちのときは保育園いい形でバックアップしてくれた現状はある。未満児の場合かなり課せられている課題が多いので、未満児にあたる先生方は力量が問われるので、2人はいい時であったと思う。
- こういう方々は、教育委員会的には要保護とかで子どもをサポートしても、結局 親をサポートしないと同じになってしまうが、全部町にと言う訳ではないが、町としてはサポートされているのか。
- スクールソーシャルワーカーさんは、家庭訪問をして児童だけでなく、お父さんお母さんの相談にのっていただいたりとかしている。飯田児童相談所の職員の方にも家庭状況を把握するのに合わせて、こういうふうにしていったらどうですかとアドバイスしていただいたりとか、話を役場の方でできる事、教育事務所でできる事などを案内するなどやって頂いている。
- それをやってもらって、その家庭はいくらかわ変わってきている様か。
変わってきているのなら、続けてやってもらっていいけど、ただやっているだけでは何にもならないと思う。
- それがうまくいかなかったら、町がどこまで入り込むのか、あるいは入り込むべきなのかがまた難しいですね。しかも家庭の問題も絡んでいたとすれば。
- 例えば、子どもが親に手を出したとかいう事例があると関われるんじゃないか・・・
だけど、普段の生活からはきっかけが無いんじゃないか。K家も民生委員さんと一緒に、子どもが生まれる前から関わって、とりあえず家庭環境を整える事が課題だったので、入り込んでしまうと言うように必要があれば入り込んでいる。
- よくテレビでやっている殺したとか殺されたとかの事件で、対応が遅れたとか何だとか行政機関が一生懸命やっていても取り上げられるケースがあるが、そんなようになっていくのかな。
- 現実にそういう事がある。この中にも。なたを持って来たとかあるから、そういうところであぶないから、里親とか施設へ預けさせてもらう。
今の話の子どもはどちらかと言うとまだいいが、臨床心理士の相談とか、スクールワーカーとか相談しているが、親の場合SSWが家庭に入って、児童相談所、福祉施設、役場の民生課あたりが家庭に入って、相談にのってやっていく。相談にはいった時に一つ一つのケース会議を開いて情報交換をするということをやっている。
- 逆に周りの環境を受け入れる姿勢は積極的なのか。どちらかと言うと積極的でないとか、他人事みたいだとか、興味が無いとか、当人の親たちの事だけど、例えばN家が近

くけど、お母さんはいない日が結構多い。一人で日常生活をしていて車が止まっていない日が多い。あるいは夜に車が無かったのに、朝は泊まっているという生活である。うつ状態と言う以前に、生活そのもののスタイルが、普通の人とは違うような気がする。そういう人たちはいろいろな話を持って行っても、子どもたちも興味を示さないような気がする。そういう人の扱いは難しい。毎日毎日地域の周りに人たちが気にして見ていないと情報が上がってこない。提供する気も本人は無いし。

- 今回上げてあるほとんどの方は、支援してほしいと言う方で、相談に言っても「ほっといてくれ」と言う方はいないです。利用できる事は利用したいということで、こまり感はあるが、これはいけないことだという認識の仕方が違う、学校だとか我々が思っているものと認識が違う。こまり感が無い訳ではないが、それがもっとどん底の状態をみているので、そんな大したことじゃないとか、状況に慣れちゃっているとか、こちらが手を出しても、全てを改善するとかになってないような感じがする。
なので、実態が全然わからないというところがないので、わからず過ぎ去って大事件を起こしたというのが一番まずいが、いくらかなり関わりを持つ人がいるので、その点だけはまだいいのかなと思う。改善策を皆んなで見えていけたらいいのかなと思う。
- 自治体規模でみると9件は多い方か。
- 飯田児童相談所が時々来て打合せするが、人口規模でこれだけケースを持っている所は無いという。
- だけど、世間一般の世の中から入ってくる情報を聞くと、もっとたくさんあっていいような気はする。比率で行くと高いんだ。
- 件数は飯田市が一番多いんだけど率で行くと高い。
- 上伊那の一部がはいってトップクラスと言う事は、えらいことだ。
- 何かしらの障害を持っている方がいるが、その割合は阿南町は特別多いと言う訳ではなく、特別支援の南信教育事務所の先生に聞いたが、障害の割合も普通であるし、自情障の方の割合についても、阿南町は特別多いという訳でもなく平均的だと言っていた。
- そうすると何が異常なんだろうか。
- 異常じゃなくて、逆を見ればそれだけ把握をしていて対応していただいて、情報を把握しているという見方もできる。
- 昔は家庭訪問といい、先生が回ってきては話をする事があったが、今はそういうことが無いのか。行ってもいなかったりするとだめだが。
- 考えると、あっさりと飯田下伊那で集めてご飯を食べさせて、面倒見てぱっと別れるような簡単な事にやった方が、いい子が育ちいいと思うがそうではないんだな。
そうしないとこんなのは大変だ。
- それには、親が子どもを一生懸命育に生きがいを持って育てるという気が無いという気がする。

- やはりみんなが家庭環境だと思う。そんな言い方もどうかと思うが一番影響があると思う。行政がどこまで支援しなければならないかという問題や、教育委員会がここまで、民生課がここまで、財政支援で総務課がここまでとなると、連携が必要であっただこっちだとなると何処へ相談していいかわからなくなる。
- 今こういう問題は何処が窓口で受け入れているのか。
- 18歳までは教育委員会です。
- ケース会議の時に、例えばK家と言えば、子どもが生まれるから民生課の保健師さんに参加してもいいしょに行って、保健師さんの立場から言ってもらえるし、私は私の立場でいえるという形で、ケース会議の時に誰に声をかけて会を開くかなので、連携しやすい。
- ケース会議を開いたときに、この子どもにはどういう支援が必要だと、情報交換が出てくるから、出て来た時に民生課にお願いをして、保健師さんにいってもらいますかと発展していく。
- さっきの話で、検出が突出しているということは、いいか悪いかでなく、実態を把握しているとは言える。少なくとも他の自治体が顕在化していないようなものまで阿南町がとらえていると考えた方がいいような気がする。阿南町だけおかしいと思えない。
- 先ほど町長が言ったような心配がある。ああいう心配が出てくるとすぐにこちらで把握できるから、児相へ行くとか、施設へいくとか判断できるからありがたい。
- 住みやすいところだから、こういう人が増えるんじゃないか。
- アパート暮らしだと帰っても来れないが、阿南町は一戸建ての家なので、子どもを連れて帰って来ても住む場所もあるし、働く場所もあるので戻りやすいのかな。
- K家の場合、R君が何かあるということを周りが察知したり、学校で問題視してくれたので、ケース会議に続いて言ったんですけど、一番わかるのは学校の先生で、先生の見えるところで伝えて行ってほしい。
- 今K家の話が出たが、実際にあざを作ってきたから実際に、だから学校でもえらいことだということで。
- これ9件のうち6件が具体的な手が打たれている。里親だとか施設だとか。他の3件は、例えば新野のK家の場合は、お父さんの勤務先がかなり家庭全体をコントロールされている動きが見れてたから、残りの2件で問題になるのは不登校が手が出ないということですね。
- 不登校でも支援員をお願いして毎日迎えに行く、大変なことだ。行けばおかあさんいなくて子どもは寝ているだけ。入って行って支援員の人でもまだ若いから心配だ。中学生ともなれば力も強くなっている。
- K家はまだケース会議をやってないけど、こういうのはどこでGOさいんがでるのか。

- 今度相談会をするということで、情報をつかんで必要があれば、相談ということになって、学校の方から情報をもらって教育委員会と相談して関係する方を招集することになる。
- K家はお母さんがしっかりされてなくて、部活とか他の親が今まで応援してきたが、その親も協力する気が無くなって来て、協力しても何か一言でも言ってくれればいいが、何もないから。
- ということは、家庭と相談してやると言っても、そのお母さんは反応しないんじゃないのか。
- お父さんにしてもお母さんにしても、どうしていいか解らないんじゃないかな。自分の言う事を聞かせようとしても、言う言葉も見つからないし、言っても聞かないし、面倒だほっとけ、どうなってもいいわとなる。
- 少なくともここでピックアップされれば、継続的に何らかの形で面倒を見て行かなければならないと思う。
- 一番苦しいのは、母親の問題であるが母親が育児放棄で、子どもの面倒を見るのが嫌だからパチンコ行っちゃうとか、飲み行っちゃうとか、そういう母親だから指導のしようがない。
- 結論が出ない話ですが。
- いずれにせよこういうことがあるということで、就学相談と同等に考えてもらって、これに関わるみなさん、お金がかかることがあれば。
- それを聞こうと思ったんだけど、他の自治体よりこういう対策費がおおくかかるということでしょう。
- 短期とかで母子とか面倒を見れないと言うと、一時預かりをしたりお願いするときに、どうしても公費で負担しなければならない。それから会議を開いたり支援したりすると、どうしてもマンパワーがいる。何処の町村もそれだけの担当をあてがって行っている。子育て支援と合わせたりとか、いろいろある。国の方でも包括的に子どもの支援をする窓口や組織を作りなさいよということになって来ている。それないの体制をとっておかなければいけないのかなと思う。
- 端的に別れさせちゃって、国とか県の補助で何とかするとかないのか。相談して努力しているのは解るが、やり応える話でないし、そのうちの問題が起きれば行政の関心になるし、第一子どもの為にならないと思う。いくら繰り返しても嫌になってしまう。それよりはあっさりしてもらって、別れてご飯食べさせてもらって、面倒にてもらって、そこへ先生が入って教えたりしてもらってやった方が良くと思うが、そういう補助はないのか。
- そういう場合もあるが、矛盾する話だが家庭状況が悪く食事も与えられなくて、別々に暮らした方が良くと言うが、実際行ってみると、周り面倒を見ていないと思われていても、子どもと別れて暮らすのは勘弁してもらいたいという、拒んじやうところもある。
- 子ども好きだからなのかな。世間体からなのかな。

- 本来的に親子なんじゃないですか。母親との絆は強いと言うから。
- 母親から虐待を受けていて、別に暮らした方がいいよと子どもに説得しても、離れたくないと言う。
- まあ、今日は状況報告ということで。
- あと問題になっていることでK家のことですが、お母さんがもう保育園に入れたがっているくらいで、まだ早すぎるくらいなので、未満時の子育ての保育士さんには、子育て以上にお母さん育てをしてもらいたいのので、託すところが多くですがよろしくお願いします。
- 回数は少ないけど子育て支援に顔を出していて、子育て支援の勝又先生や総括の伊藤先生にいろいろ指導していただいています。
- 総務課長
それでは次の項目で、(2) 老人クラブによる児童見守り隊について、提案を大倉委員の方からお願いします。
- 大倉委員
提案と言っても、こうしたらという事ではないんですが、先日、富草の安全連絡会に出席させていただいたら、富草小学校は下校が集団下校でやっている。そこで、老人クラブで以前から見守りと言う事で、下校の道に立っておっていただいたんですが、富草の老人クラブ会長の方から、富草のいくつかの老人クラブが無くなってしまっていて、できなくなってしまっている。これについてはどうお考えですかという意見をいただいた。保護者の方と以前から話をしていると、保護者は現役で働いておりまず下校時に立つという事は出来ないし、ありがたいという。立っていただいているだけで抑止力がある。
老人クラブをどうするかの問題にもなってくるが、その辺をどうにかできないかということである。富草老人クラブについては、総務課の方と話をさせていただくという話があったんですが。

《意見》

- 伊藤さんと話をしている。これについては10月議会にて小澤議員から、平成17年ころ発足したが、平成23年ころから活動がされていないので、やって行った方がいいのではないかとご提案がありました。伊藤さんとも話をした中では、今大倉さんが言われたとおりで、別に老人クラブがやらなければならないと言う事はないんだが、我々としてはそうした活動を是非やっていきたいと思うし、今までのように腕章・帽子を支給してもらい、ボランティア保険を加入してもらって、活動を進めて行ったらどうか。
ただ組織をまとめるのに、教育委員会でやるのか、総務課の防犯でやるのか、組織立ったことでやっていきたいから、その辺を行政の支援をお願いしたいと言う事でした。
- あまりなことは言えないが、老人クラブも変わってきた。ボランティアとかそういう意識はだんだんと無くなってくる。入る年齢になって「入れと言うと」いやだと言う事になる。数が減ってきたところにまだ先が残っている年代は、ずっと役員をやって行かんらんでいやだと言う。どうもそうなる。
だんだんできなくなって、最後には役場でそういう係りを設けんらんようになる。

- どこがやるということで考えると、本来PTAがやるべきことだと思う。無いので設立するとなるとやるべきなのはPTAで、だけど実際はできる人はほとんどいないので、そこを地域のみなさんをお願いする。老人クラブに入って無くても、子どもの事をやっているという人はいる。
- 今老人クラブの人はいいが、これから老人に突入する衆は、そういう事を厭うようになった。だから老人会にも入らないし、考え方が変わっちゃった。それは、さっきからもでている親が変わってきたと同じ事だ。
- 富草ではなぜこれが話題になるのか。集団下校につながっているから？ 自分のまわりにこういう事が話題になっている事がないので、というのは小学生や中学生がいないという現実があるので、富草は集団下校をして尚且つ見守り隊がいるという体制があったから、それを維持したいという事だと思うが、他のところは見守る習慣がないのでその差があるのか。
- 新野はそういうのは無いか。
- ない。 個人でやっている人はいるが集団ではない。
- 大下条はある。中谷の橋のところでやっている。
- 新野では学校協力隊という者があり、作業があるで出てこいとか、面倒をみよとか、自分の畑をかしてそばを作らせたり、そばを打たせたり食べさせたりしている。それが蔓延して先生も生徒も麻痺して、あの衆がやってくれるでいいわというずるい考えが増えてきている。だから自分が借りている住宅の草もとらない。先生も変わっている。
- 大下条で全然そういう話が出ないのは、積極的にやっているためか。老人クラブの会合の中で順番を決めてやっているみたいだ。
- 話は元に戻るけど、富草の見守り隊というのは、自主的にできないのか。
- PTA受ければ、PTAがやる訳ではなく、PTAがお願いするようなふうにしてもらえば、以前から老人クラブにお願いしてあって、学校も親もやってくれるのが当たり前になっていて、こっちが協力しても、帰って来ないといやになると言うのといっしょで、そういうところがあると思う。老人クラブじゃなくても、やりがいがあることになればいいんで。
- 筋から言えば、PTAからお願いをするのが筋だ。
- 基本的にボランティアであれば、行政がお願いするのは変な話だ。
- 伊藤さんが老人クラブをメインで持ってこられたのでこうなっちゃっている。
- だんだんボランティアの意識が変わってきちゃっている。ボランティアは自主的にやって、見返りなどは考えずにこうしたいとやるものだが、だんだん保険がほしいとか、旗がほしいとか、履きちがえちゃつとところがあるが、まあ何でも行政を頼りにするところはあるが。
- PTAの方で考えてもらって、お願いするところはお願いする方がいいのではないか。

その方が筋だ。

- 伊藤さんに対しては、見守り隊を老人クラブがやっていただいたものと別で考えて、見守り隊についてはPTAが主で、必要無いと言われればしょうがないので。
- 老人クラブはきっと継続してやりたいんでしょうね。
- そうすれば、老人クラブとしてでなくやっていただければいいのではないか。それはそれでいいと思う。
- 年度末に感謝状だとか、子ども達を送るなどして、やって良かったという思いを上手に持って行けばいいんじゃないかと思う。
- 松澤総務課長
それでは次に移らせてもらって、(3) 少子化・人口減少地域に対応した学校・教育環境のあり方と方向性について、教育委員会の事務局から説明をいたします。
- 岡田事務局長
資料2でページ5・6から始まりますが、8月23日に行われた第1回教育環境のあり方検討委員会の会議の様子です。6ページからのものは記録であり、5ページのまとめたものを紹介して説明します。

＜教育環境のあり方検討委員会次第の資料に基づいて説明＞

＜意見＞

- アンケートをとるとかそういうことは出なかったか。まあこれからのことだが、阿南高校のやつは、全部アンケートをとって見ましようと言うことで進めておるんですけど。
- 意外とかこのこととか盛り上がって、意見が出ました。
- 結構だ。とにかくやって行ってもらって、行政で急に立ち上げる問題でもないし、阿南高の再編の問題もあって、上下水道の問題もあって併せて新聞に出ておったが、いろいろな問題もあるので、こういったいろんな人に参画してもらって、検討してこうしてやっていく中で示唆していつてもらわんと、行政主導型でばんばんとやる時代でもないし、大事なことだと思う。
- 松澤総務課長
他にご質問ご意見があればお願いします。

＜意見＞

- この議事録と言うのは、教育委員会の中でも出してもらう事はできるのか。今日は総合教育会議だが、定例教育委員会でも出していただけるのか。
- 出しますし、もう少し簡単にまとめたものを町民の皆さんにも報告します。
- 広報とは違った形で、今言った4つの検討委員会は、トピックスでその都度特番で情報公開していく。ホームページも出して、民衆が一番見るのは広報だ。どうしても年寄

りが多いので、そうなる情報が伝わるというとそうなる。見なかったとういのはしょうがない。だけど15日には広報が出るが、それ以外にもトピックスとして具体的に各委員会の様子をやる度に出して行く。その中でいろんな意見も出てくるし、そうなって行ってくればいい。情報公開は必要なので、議会も同じだがそれが大事なので、それがないとだめだ。

○ 松澤総務課長

9ページ10ページは何か説明を。

○ 岡田事務局長

<8月18日に行った先生たちの研修会でおこなった、花まる学習会の講演における師竜の説明>

《意見》

○ 北相木だかは教育委員の衆も行ってきたのか。見てみて、当たってみて、考えてみてくいうのを利用して金があるんなら金を出すでと言ってある。

○ 私は、積極的に花まるを取り込むのはいいですね。

○ それはまた検討してもらえれば、その専門の衆が必要だとすればそれに勝るものはないので、必要なら出すという事。

○ それは賛否両論なので何とも。

○ 現状で北相木ではどういうやり方をやっているかということだけを見に行っただけから。

○ あそこは結局クラスの半分を連れて来てくれるので、募集をかけて、それも多数の応募がある中から選抜して選ぶ。その子たちを10人地元の子を10人の形でやっている。行政が山村留学と声掛けしても、なかなか集まってこないが、花まるがやると人が集まるといところが良いのかもしれない。

○ 売木村もこれまで山村留学を民間でやっていたが今度変えた。うまく利用できるか、利用できるところは利用して、考えてしっかりやってくれ。それで教育長の言う「考動力」がそれで良くなるかどうか頼む。

○ 今回「花まる」をお願いしたのは、先生方のそれぞれに授業のポリシーがあると思うが、いろんな学び方を学習しなきゃいけない。こんな学び方もあるんだという事を、花まるを例にして学んでいただいて、これが良いなあとと思えば活用して行っていただいて、うまく盗んで吸収して、阿南町の子ども達に授業を教えてもらう。というようにつなげていってもらえればありがたい。

売木の子どもたちは人にあっても挨拶も出来ないし、言葉も言ない。そんなところから打破するために、あれがいいんじゃないかとあれを取り入れた。それを演習でやってみて、先生がどう感じたかわからないが、この部分は取り入れると感じれば取り入れればいい。そういうようなことで機会とらせていただきました。また何か必要という事があればお願いしていくかもしれません。

6 閉会

○ 松澤総務課長

それでは、以上で意見交換の全てとさせていただきますが、その他がありますので何かあれば、よければこれで第1回の総合教育会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

<15時3分>

